

「今どきアート2017 GIRLS！」 「福沢一郎 物語を描く」を鑑賞しよう

美術博物館には、企画展示室のほかに郷土資料展示室、常設展示室、福沢展示室1〜3があります。常設展示室と福沢展示室では、収蔵品を中心に定期的に展示替えを行っています。ぜひご来館ください。

現在の展示

- 常設展示室「今どきアート2017 GIRLS！」
会期 9月3日(日)まで
- 福沢展示室「福沢一郎 物語を描く」
会期 11月30日(木)まで



「今どきアート2017 GIRLS！」

市内在住の美術品蒐集家であるI氏の所蔵品から少女を題材とした作品を展示し、その多彩な表現を紹介しています。I氏は、美術品蒐集家として美術関係者によく知られています。長年、若手の現代美術作家を中心に作品の蒐集を重ね、所蔵品の総数はおよそ700点。質量ともに多くの蒐集家や美術館などからも注目されています。

■常設展示室の展示作品

- ①近藤智美「甲でもないし乙でもない」
- ②田川春菜「プシュケ」
- ③坂本友由「盛りで生やしで戯れ合って」
- ④大竹夏紀「twinkle・みい # 3」
- ⑤大竹夏紀「twinkle・あや」
- ⑥入江明日香「白牡丹」
- ⑦森洋史「お気に入りの場所(待ちぼうけ)」
- ⑧田村吉康「春」
- ⑨内田佳那「芽吹き」
- ⑩堀越達人「Unicorn」
- ⑪永井優「KAGURA-20-2」
- ⑫イチザアキコ「僕らはみな悲しい獣」
- ⑬佐々木茜「鍵」



「福沢一郎 物語を描く」

福沢一郎は、彫刻家になることをめざして、1924(大正13)年に芸術の中心地であったフランス・パリに渡りました。しかし、興味の対象は次第に絵画に移行し、当時ヨーロッパで流行していた「超現実主義(シュールレアリスム)」と言われる芸術運動の影響を受けた絵画を描くようになりました。1931(昭和6)年に帰国し、その後は社会風刺的な作品や神話・聖書・歴史・世相などを題材にした壮大な作品を数多く発表するなど日本画壇に異彩を放ち、独自の境地を切り開きました。

今回は、『往生要集』や『旧約聖書』など古今東西の物語に取材した作品を紹介しています。

■福沢展示室の主な展示作品

- ①アダムとイヴ 1970(昭和45)年
- ②地獄図 1972(昭和47)年
- ③食水餓鬼 1972(昭和47)年
- ④昼寝する餓鬼 1972(昭和47)年
- ⑤政治家地獄 1974(昭和49)年
- ⑥レダ 1983(昭和58)年
- ⑦ノアの箱舟 1984(昭和59)年
- ⑧ヤマタの大蛇 1987(昭和62)年
- ⑨天の磐戸 1987(昭和62)年
- ⑩牧神とニンフ 1989(平成元)年

会場・問い合わせ

美術博物館(黒川351番地1、☎(62)6200)

国民年金保険料を前納できます

国民年金保険料を一定期間まとめて納めることができる前納制度があります。詳しくは、高崎年金事務所(☎027・322・4299)にお問い合わせください。

前納すると保険料が割引になります

◎現金での納付を希望する人
「国民年金保険料納付案内書」についている下期前納の納付書(10月分〜平成30年3月分)を使用して、10月31日(必)までに納めてください。

口座振替で6カ月分の保険料を前納するとさらにお得

◎口座振替で保険料の前納を希望する人
預金通帳・預金の届出印・基礎年金番号の分かる物(年金手帳、国民年金保険料納付書など)を持参の上、8月31日(休)までに金融機関または年金事務所へ申し出てください。

※保険料を前納した期間中に、就職して厚生年金に加入するなどの理由により国民年金保険料を納める必要がなくなった場合は、それ以降の保険料は還付されます。

市民の文芸

俳句

- 風も無く崩るる牡丹姉逝けり
水満ちし植田朝日の香を広く
亡き父を偲び可憐夜虫とぶ
鍾乳洞出て万緑の眩しかり
山の寺山気にうるむ濃紫陽花
夏帽子脱いで地蔵に手を合はす
通し鴨釣人多く湖は着
溪流やしぶき飛び散る苔の花
農道の車窓に香る早苗かな
花うつき友の柩に散りかかる
- (下黒岩) 吉田シズ江
(曾木) 平井 和子
(富岡) 小池はるみ
(下黒岩) 野口ちえ子
(富岡) 黒澤 克美
(上黒岩) 本多八千代
(曾木) 佐藤まろや
(神農原) 上原 良雄
(富岡) 橋本 節子
(中高瀬) 佐藤 強

高橋 洋一 選

短歌

- 病み臥して故郷山口恋いにけん十九歳なる工女のみ墓
戴きし花瓶にけふは野ばらを活け時折触れてしるき香を吸ふ
我が短歌のどろろが妻に問えば「ドラマ見てるの少し黙って」
山間の崖を彩る紫陽花の淡いブルーに心ひかれり
いただきし友の糠床に心こめ畑にとれたる胡瓜つけ込む
脳トレにとお手玉両の手に持てば亡母の得意技の姿うかびぬ
製糸場の屋根うら工事の見学に明治の職人の技にふれたり
落花生の黄花咲くころ待ちおりて追肥しやれば葉の緑増す
いつのまに巣立ちたるや鳴き声も聞こえぬ今朝のつばめの巢見上ぐ
- (一ノ宮) 赤石 静江
(七日市) 恩幣 森造
(南蛇井) 横田 久子
(後) 賀 黒田 修司
(七日市) 宮 和子
(七日市) 新井 逸子
(七日市) 大瀧 松代
(白岩) 金井 幸子
(下高尾) 小林 勝明
(富岡) 橋本 節子

杉山 郁子 選

詩

- 寒い日の朝だった
いつものように テレビ番組の頁を開くと
「地球温暖化」の文字が 目にとびこんできた
私の一番 関心のあることだ
時を待って スイッチを入れる
そこに現れた 北の果ての姿
連綿と続く氷山 大きさに圧倒される
その氷山は 手前から裂け 大きく崩れて
広い海へ 雪崩込んで行った
氷山が崩れ そこに住んでいた
オットセイは 流されて行く
南の海の水位は上がり 失われていく人の住む大地
この有様を見ていると 私は
日常の己れの暮らしに立ち戻り 考える
この地球に生きる 人達の
悲しみや苦しみが 如何にしたらいいのだろうか
知恵を出しあい力を出しあい 大きい塊になれば
地球温暖化を 止めることの出来る
基盤となるだろうか

宮前 利保子 選

川柳

- 凡人は凡人らしく村起こし
ごめんねが飲み込めなくて裁判へ
ふり返りもとの家見てさびしそう
歯石取り冷酒しみる夏の夜
図書館は今日満員の梅雨盛り
田圃アート遊び心のある時代
朝仕事終わった後のお茶の味
夏バテに活を入れてる梅ジュース
ボケ防止投句たしなむ孤老おり
西瓜買い母真剣に等分す
- (下高尾) 金田 照治
(一ノ宮) 大野 里子
(岡本) 轟 陽子
(七日市) 浅川 幾雄
(上小林) 岩井 進
(富岡) 大河原富美
(富岡) 山田しげ子
(富岡) 金井 君代
(富岡) 橋本 節子
(黒川) 原田利恵子

黛 猛 選